

◆単元名：第6章 国際社会に生きる私たち 2 国際社会が抱える課題と私たち

「④なくてはならない食糧と水」(教科書 pp.214-215)

◆本時の目標：

人間の安全保障の実現はなぜ困難に直面し、貧困や飢餓、栄養不足人口の増加を招くのだろうか。多様な発生要因とその関連性を考察しながら、国際社会が直面する課題を深く理解する。

《本時の展開例》

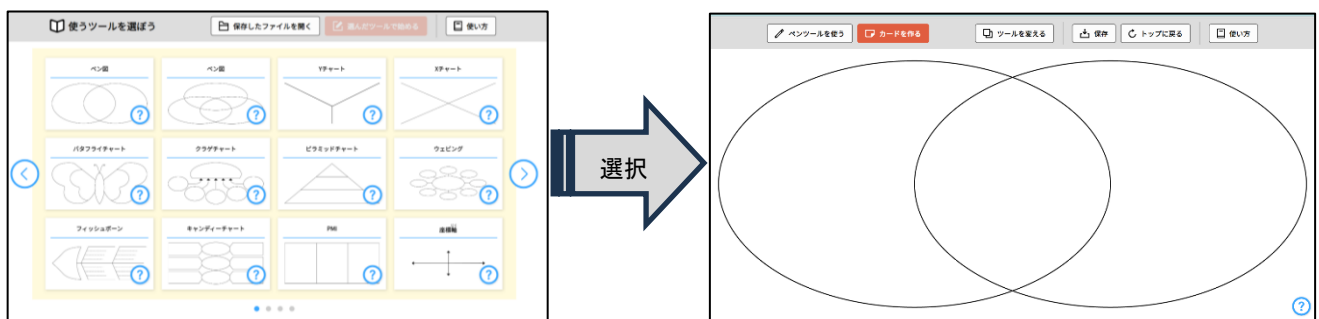
	学習活動	留意点	デジタル教科書・教材				
導入 (5分)	●p.214・③「世界の飢餓状況を示すハンガーマップ」を観察し、栄養不足人口の割合が高い国を確認する。	・ハンガーマップは、階級値別に表示できる。特に25%以上の国や「データなし」の国に着目させる。	・電子黒板に p.214・③「世界の飢餓状況を示すハンガーマップ」を拡大表示。				
展開 (40分)	<p>【問】「人間の安全保障」とは、紛争や暴力以外のどのような脅威から人間を守る考え方だったろうか。</p> <p>① 協働学習 (情報整理)</p> <p>【問】なぜ、人間の安全が脅かされるのだろうか。「動画」を見てその要因をあげ、以下の二つの視点で「ベン図」に整理してみよう。</p> <p>●動画視聴「世界の飢餓」2：29</p> <table border="1" style="width: 100%; text-align: center;"> <tr> <td>①自然的な要因</td> <td>②人為的な要因</td> </tr> <tr> <td>洪水・干ばつ・地震等の自然災害・気候変動の影響</td> <td>紛争・貧困・学校に通えない・食糧価格の変動</td> </tr> </table> <p>↓</p> <p>② 協働学習 (要因考察)</p> <p>(1)の成果を写真に撮影して保存。付箋をはがして、(2)の協働学習で使用。</p> <p>【問】それぞれの要因はどのように「関連」し合っているだろうか。</p> <p>●A3用紙2枚分のサイズの紙に付箋を配置して、「関連図」を作成する。</p> <p>【問】人間の安全保障のために、国連はどのような取り組みをしているのだろうか。</p>	①自然的な要因	②人為的な要因	洪水・干ばつ・地震等の自然災害・気候変動の影響	紛争・貧困・学校に通えない・食糧価格の変動	<p>・p.212を参照しながら、前時の振り返りを行う。</p> <p>・3～4人グループ(9グループ)を構成し、各グループに、ベン図が書かれたA3の用紙と付箋を配布する。Google Jamboardでも可。</p> <p>・ベン図の二つの○が交差する中央の部分に「人間の安全への脅威(栄養失調や飢餓)」、左右に①、②の視点を書き、その要因を整理させる。</p> <p>・動画の視聴後、p.212の本文も参考に、感染症、人権侵害、p.215の水不足や汚染、水の過剰利用なども図に追加する。</p> <p>・関連図を作成する過程で、諸要因がどのように関連し合うのか、グループで話し合いながら諸要因を線でつなげていく。「関連図」でなぜ結びつけたのか、その理由を話し合い、書き込んでいく。</p>	<p>・デジタル教科書の「思考ツール」から、ベン図を選択→「選んだツールで使い始める」→「画像で保存」。予めGoogle Jamboardの背景に設定し、各班の代表にClassroomを通じて、ひな形を配布してもよい。(A3用紙の代用として使用。)</p> <p>・デジタル教科書の思考ツールは、個人でも取り組めるように作られているため、(1)を個人で行ったのち、(2)のパートに移行していくことも可能。生徒の力量を見て、取り組みの手法を変えてもよい。</p> <p>・動画：「世界の飢餓」視聴の際、再生速度を「おそい」に設定すると再生時間が延びてしまうが、生徒がじっくりと聞き取りながらメモを取れるという点では有用である。必要な部分が視聴できたら、再生速度を早めてもよいだろう。</p>
①自然的な要因	②人為的な要因						
洪水・干ばつ・地震等の自然災害・気候変動の影響	紛争・貧困・学校に通えない・食糧価格の変動						
まとめ (5分)	【問】「人間の安全保障」の実現はなぜ難しいのか、学習の成果を振り返りながらまとめてみよう。	・ClassroomからGoogleフォームで課題を配信する。					

◆指導にあたって：

- 本時で取り扱う貧困や飢餓、食糧問題や水不足などは、いずれも人為的要因と自然的要因が絡み合い、その淵源は極めて複雑である。特にサブサハラ・アフリカでは、干ばつと水不足による農業不振に加え、民兵や傭兵、テロ組織が割拠し「国家の安全保障」そのものが危機に瀕して、人道上の危機が「人間の安全保障」を脅かしている。アフリカ諸国は、1960年代に脱植民地化から主権国家体制を築くも、その領域に暮らす「国民」の実態は多様な民族・部族で構成され、国民統合と国内統治を困難にさせた。紛争や内戦が多発する構造的要因をつくったのは、アフリカ分割統治の境界線を引き継いだ「国境線」であることは言うまでもない。この意味から、本時の内容は第6章2節①～③と密接に関連しており、指導の中で「国際社会が抱える課題」を深く理解させたい。
- アフリカ諸国の主権国家の枠組みと、不十分な社会保障制度と財政、脆弱な経済状況の間隙は、新植民地主義を招き、インフラ投資で過剰債務を背負った政府は財政的苦境を加速させ、援助供与国への依存を強めた。ウクライナ問題をめぐって分断が深まる国際社会で、国連総会の票田として支持固めのために、大国がアフリカ歴訪を展開しては、盟約を取り付けている。アフリカ州をはじめとする、貧困にあえぐ地域に必要なのは、一時の友好関係や援助ではなく、持続可能な開発を根拠とした「人間の安全保障」の実現である。第6章の冒頭にある「世代内の公平」や「自然と人間の調和」などの実現に向けて、国際社会への関心を高めながら、生徒に深く考察させたい。

◆デジタル教科書活用のねらい：

- 「動画」(p.214〈世界の飢餓〉)を使用し、本時の学習の主たる学習資料として活用する。
- デジタル教科書の「思考ツール」を用い、「人為的要因」と「自然的要因」の整理に活用する。



↑デジタル教科書中の「思考ツール」画面(左)と「ベン図」(右)



↑(1) 協働学習の例：「ベン図」

↑(2) 協働学習の例：「相関図」

◆授業でさらに活用するポイント：

- 本時の展開は、授業を2コマに増やし、発表や情報交換の時間を十分に確保することで、さらに生徒の考察を深める事ができる。また、生徒がまとめた「相関図」は、工夫した点や構図を9グループの生徒同士が互いに確認し合うことで、多様な見方や考え方・思考の「違い」に触れることができる。